

「出前授業～農業を身近に感じよう～」を開催

〈中国四国農政局四国東部農地防災事務所〉

四国東部農地防災事務所では、板野東小学校の5年生81名を対象に、地域の農業及び国営吉野川下流域土地改良事業が果たす役割について理解を深めてもらうため、平成25年10月8日（火）に出前授業を、平成25年10月10日（木）に北部幹線水路（大寺工区）建設工事の現場見学会を行いました。

出前授業では、はじめに、食料自給率と地域の農業について説明しました。日本の食料自給率は39%であることを紹介すると、学校の授業で習っていたようでほとんどの児童が理解しており、徳島県の食料自給率は全国平均よりも高い44%であることを知っている児童も多いようでした。その後、食料自給率を上げる必要性や、日本全体で食料自給率を上げる取組をしていることなどを説明しました。また、前日の給食を題材に徳島県産の食材を当てるクイズでは、皆真剣に考え、中には外国産もあることを説明すると、とてもびっくりしている様子でした。

その他に板野町の主要農作物を当てるクイズでも次々と手を挙げて答えるなど、児童たちは積極的に参加し、にんじんやれんこんが特産品であることを改めて認識していました。また、徳島県産の農作物が全国へ出荷されていることや、大阪市場で主要な地位を占めていることなどを知り、少し驚いた様子でした。

続いて、農業用水の役割と国営事業について説明しました。農業には多くの水が必要であること、その水は川の水やポンプでくみ上げた地下水を使っていること、その水を農地に届ける水路には、老朽化や家庭からの排水流入による水質悪化といった問題があることを説明し、これらを解決するため、国営事業で新しく造っている農業用水路について工事写真も交えながら紹介しました。

今回は後日にシールド工事の現場を見学してもらうため、シールド工事の歴史や施工方法を説明すると、シールドマシンの大きさやパワーにすごく関心をもっていました。また、水路の大きさや流れる水の量の多さにも驚きの声を上げていました。授業後の質問タイムではたくさんの質問があり、「シールド工事の価格やシールドマシンの値段」、「工事で一番苦労したこと」などといった質問がありました。

〈出前授業〉



真剣に授業を聞く児童



質問する児童

現場見学会では、はじめに施工業者（株式会社竹中土木）より、北部幹線水路（大寺工区）建設工事の施工方法であるシールド工事について説明を行いました。2日前に出前授業にて、シールド工事の説明をしていることもあり、施工業者による具体的な説明にすごく関心をもって聞いているようでした。

説明のあと、作業実演として、①門形クレーンを使った吊り上げ、②測量機器（トランシット）を使用した測量実演を行いました。門形クレーンを使った吊り上げでは、児童たち数名が実際に門形クレーンの操作を体験し、すごく笑顔で楽しそうに「クレーンで荷物を持ち上げた！！」と言いながら、なかなか体験できない経験に興奮しているようでした。また、測量機器（トランシット）を使用した測量実演では、トランシットで、200m程先に置いてある看板を見て、「あんな遠くに置いてある看板の文字や絵が見えた！！」と、すごくビックリしている様子でした。

続いて、シールド工事で使用するセグメントへの寄せ書きを行いました。児童たちは、「事故のないよう工事をがんばってください」、「最高に楽しかった」や「水を大切にします」等、応援や感想を思い思いのメッセージとして残してくれました。

最後に、寄せ書きを行ったセグメントの前で記念撮影を行いました。自分たちで書いた寄せ書きの前での記念撮影で、良い思い出とともに、写真の中に残すことができたと思います。

前日は台風が近いため、安全を考慮し中止しましたが、この日は日差しも強く、気温も高い中、児童たちの熱気で現場はさらに暑かったように思います。短時間ではありましたが、児童たちに喜んでもらうことができ、施工業者（株式会社竹中土木）の協力のもと、無事に見学会を終了することができました。また、地域学習の機会を提供するとともに、当事業についても理解を深めてもらうことができました。今後このような機会を利用して、広報活動、地域貢献活動を実施していきたいと考えています。

《現場見学会》



1. 工事内容説明



2. トランシットでの実演



3. クレーンでの実演



4. セグメントへの寄せ書き



5. 記念撮影



6. 泥水を触る児童たち

出前授業及び現場見学会ともに、クラスごとに行ったため3回ずつ行いました。どのクラスもクラスごとに個性が違い、活発に質問が出るクラスや、説明をしっかりと聞くクラス等説明内容は同じ出前授業及び現場見学会でも、全く違う雰囲気のものとなりました。ただ、3回ずつ行うのは少し大変で、学校の先生方の苦勞が身にしみてわかりました。

また、出前授業及び現場見学会終了後に行ったアンケートによると、身内で農業をしている人がいる児童は、アンケートの回収ができた77名中34名、農業用水路を造っていることを出前授業以前から知っていた児童は77名中19名であったが、今回の出前授業により地域農業や国営事業について、より多くの児童へ興味・関心を持ってもらうことができたと思います。

「食料自給率を上げるためにどんなことが出来ると思いますか」との質問に対し、「食べ物を残さないようにする」、「安価なものばかり買わず、国内産を買うようにする」「農業に興味を持ち、後継者を増やす」といった、予想した以上の答えが書かれていました。また、児童たちは、シールド工事に興味を持ったらしく、「シールドマシンの仕組みや歴史（ブルネル氏が考案したことを授業で説明）がよくわかった」との声もあり、今後も同様の機会を設け、地域の将来を担う子供たちの学習の一助となり、地域の農業について関心を持ち、理解を深めて頂けるよう、地域貢献活動を進めていきたいと考えています。

シールドの歴史（ブルネル氏）
については任せろ！！



出前授業の資料（抜粋）